

# 07

## 研究・調査事業

### 食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の課題（2023年度分）

食品安全委員会は、リスク評価の実施又は評価方法の指針等の策定に必要なデータ及び知見等を得ることを目的として、研究・調査事業を行っています。

2023年度に新たに実施する研究・調査課題については、研究・調査企画会議事前・中間評価部会での審議を経て、食品安全委員会において決定しました。

#### ■研究課題

- ☑ 食品関連化学物質のリスク評価におけるリードアクロス手法の適用と信頼性評価に関する研究（国立医薬品食品衛生研究所 山田 隆志）
- ☑ 国際動向に鑑みた食品中の残留農薬に係る発達神経毒性学分野のリスク評価手法に関する研究（国立医薬品食品衛生研究所 栗形 麻樹子）
- ☑ 養殖水産動物における薬剤耐性指標細菌の設定及びモニタリングの試行（酪農学園大学 白井 優）
- ☑ アレルギー誘発性を有する植物に由来するタンパク質の網羅的消化性評価（千葉大学 児玉 浩明）

#### ■調査課題

- ☑ アレルゲンを含む食品のファクトシート（そば類、えび・かに）の作成に向けた科学的知見の調査
- ☑ パーフルオロ化合物に係る国際機関等の評価及び科学的知見の情報収集並びに整理
- ☑ 農薬リスク評価に関する海外状況調査
- ☑ 食品安全委員会が地方自治体等と連携して行う食品安全に関する情報発信・リスクコミュニケーションの強化に関する調査
- ☑ 新たな育種技術を活用した新規食品の安全性評価手法等に関する調査

これまでの食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の報告書等は  
こちらをご覧ください。

研究：[https://www.fsc.go.jp/chousa/kenkyu/kenkyu\\_ichiran.html](https://www.fsc.go.jp/chousa/kenkyu/kenkyu_ichiran.html)

調査：[https://www.fsc.go.jp/chousa/sougouchousa/chousa\\_kadai.html](https://www.fsc.go.jp/chousa/sougouchousa/chousa_kadai.html)

### 食品健康影響評価技術研究成果発表会（2021年度終了分）

2021年度に終了した研究課題について、その研究の成果の普及及び活用を促進することを目的として、2023年1月12日に、成果発表会をオンラインで開催しました。

[https://www.fsc.go.jp/chousa/kenkyu/kenkyu\\_happyo.html](https://www.fsc.go.jp/chousa/kenkyu/kenkyu_happyo.html)

- ☑ 家畜由来薬剤耐性菌の水圏・土壌環境を介した野菜汚染の定量評価およびヒトへの伝播に関する研究（酪農学園大学 白井 優）
- ☑ ベイズ統計学に基づく推定手法を活用したアレルギー症状誘発確率の推計に関する研究（国立成育医療研究センター 福家 辰樹）
- ☑ アニサキス汚染実態調査およびリスク低減策の評価に関する研究（国立医薬品食品衛生研究所 大西 貴弘）

# 08

## 国際協調

委員、専門委員又は事務局職員が、以下の国際会議等に参加し、各国の専門家・関係機関との意見・情報交換等を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響を脱しつつあることから、出張での参加（国名の記載のあるもの）も可能となりました。

5月	FAO/WHO合同食品添加物専門家会議 (JECFA、動物用医薬品)
7月	食品安全に関する国際食品保全学会 (IAFP)
9月	Prion 2022 (ドイツ)、Eurotox 2022 (オランダ)
10月	レギュラトリーサイエンスに関する国際会議 (GSR22) (シンガポール)
12月	第22回国際栄養学会議 (日本)
2月	EFSA (欧州食品安全機関) BMDワークショップ (ベルギー)
3月	第62回米国毒性学会 (SOT 62nd Annual Meeting and ToxExpo) (米国)

#### その他

経済協力開発機構 (OECD) 農薬作業部会 (6月：第37回、2月：第38回)、コーデックス委員会各部会：第26回残留農薬部会 CCPR (7月)、第26回食品残留動物用医薬品部会 CCRVDF (2月)、第53回食品添加物部会 (3月) (中国・香港※)

※準備段階の電子作業部会では食品安全委員会事務局職員が副議長として作業文書の作成に貢献した